

# 研究構想図

## 【学校の教育目標】

# 自立 自ら動く

### 【生徒の実態】

- 学習課題に対して、仲間と共に誠実に取り組み、追究しようとする生徒が多い。
- 課題解決に向けて、自ら動いて解決しようとする姿がみられる。
- ▲知識・技能が未定着の部分もあり、すぐに周りに助けを求めてしまったりする傾向にあるため、自分で考えたり、考えに自信をもったりすることに弱さがある。
- ▲自分の考えを主張したり、仲間の意見から思考を深めたりする姿勢が弱い。

### 【めざす生徒の姿】

- ・自らの意思で学習に向かう中で既習内容を活用し、自ら考え・判断し、課題解決に向かう姿。
- ・仲間と関わり合いながら、よりよい方法を見つけ、課題解決に向かう姿。
- ・学ぶ喜びを実感し、次時への課題意識をもったり、他の事柄に学びを当てはめたりしながら追究し続ける姿。

## 【研究主題】

# 主体的に学ぶ生徒の育成

### 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自らの意思で学習に向かい、課題解決に向けて既習内容や仲間の意見から自分の考えを深め、粘り強く考察し、学びを深める中で、学ぶ喜びを実感したり、次への課題意識をもったりする姿。

## 《研究仮説》

生徒の意識のつながりが分かる単元構造図を工夫するとともに、生徒個々が主体的に学ぶための課題意識をもつための工夫や、仲間と考えを深めるための協働的な学びや、単元や一単位時間の学びを実感させる終末の工夫を重ねていくことで、主体的に学ぶ生徒を育成することができる。

## 《研究内容》

- (1) 生徒の意識のつながりが分かる単元構造図の工夫  
(単位時間のつながり、意識のつながりを明確にした単元構造図の工夫)
- (2) 個々が課題意識をもち主体的に学ぶための工夫  
(単元・一単位時間の導入の工夫、個別最適な学びの工夫)
- (3) 仲間と考えを深めるための協働的な学びの工夫  
(学び合いの工夫、学習形態の工夫、思考の可視化の工夫)
- (4) 学びを実感させるための終末の工夫  
(教科の特質を踏まえた単元・一単位時間の終末の在り方、評価の工夫)

